

日本放射線腫瘍学会 第 29 回学術大会  
シンポジウム 6 キュリー夫人記念シンポジウム

日本女性放射線腫瘍医の会 Japanese Association for Women Radiation Oncologist  
(JAWRO)の紹介

JAWRO 初代会長  
播磨洋子

日本放射線腫瘍学会第 29 回学術大会シンポジウム 6「キュリー夫人記念シンポジウム」において、「日本女性放射線腫瘍医の会 Japanese Association for Women Radiation Oncologist(JAWRO)の紹介」というタイトルで講演させて頂きましたので報告します。

JAWRO の活動として 2009 年 4 月 18 日～2016 年 4 月 16 日までのセミナー・特別講演・親睦会と助成事業を紹介しました。2011 年～2016 年 4 月までに助成金を受けて頂いた方は 6 名ですので、より多くの会員が助成金を申請して頂くように希望します。

次に、JASTRO における女性会員数の推移について述べました。2010 年 11 月 4 日と 2016 年 11 月 4 日に事務局に問い合わせた会員数では、女性会員数が増加していますが、特に看護師数の増加が著しいことが分かりました。6 年間に女性医師が 113 名増加し、335 名となっています。しかし、JAWRO の女性会員は 2010 年に 52 名でしたが、2016 年では 78 名（他に準会員 3 名）ですので、さらなる活動の発展のためには JAWRO への勧誘が必要と思います。

キュリー夫人から何を学ぶかという命題に対して、私は「日本には、なぜ女性ノーベル賞受賞者が 1 人もいないのか？」について考えてみました。その理由として、女性の研究者数が少なく、裾野が広がっていないことが一番の要因です。我が国の医師全体に占める女性医師の比率は年を追うごとに増加し、2010 年では 18.1%に達していますが、年代別に見ますと出産・育児などでの課題が多い 30 代での女性医師の比率は 26.5 %と高くなっています。一方、大学教員 2736 人を対象に実施したアンケートで「家庭と仕事の両立が困難」が一番の理由（54.6%）に挙げられているように、出産・育児や介護の負担に対するインフラ整備など、女性研究者への支援策が追いついていないのが現状です。今後、子育てをしている研究者のために保育施設を使いやすくしたり、妊娠・出産による研究の中断から復帰しやすくしたり、「不公平な処遇」を受けないようにするなどの支援策を実施するべきと考えられます。

最近、ダイバーシティという考え方が重要になってきています。ダイバーシティとは多様性、相違点であり、企業で、人種・国籍・性・年齢を問わずに人材を活用することで、ビジネス環境の変化に柔軟、迅速に対応できると考えられています。文部科学省では 2015 年度から、「研究と出産・育児・介護等との両立や女性研究者の研究力の向上を一体的に推進」

することを目的にした支援策「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」を新たに始めたので紹介しました。この制度によって女性研究者が研究を続けていけることが望まれます。また、日本の科学技術全体のためにも、男女に関わらず、研究者が自らの研究に没頭できるための環境づくりが求められています。

最後に、先日のアメリカ大統領選で敗北を喫したヒラリー・クリントンの言葉に私は大変感銘を受けましたので、若い研究者にエールを送るつもりで引用しました。「あなたは、価値がある存在で、しかも力強い。あなたの夢を実現する機会を追い求めるに値します。そのことを、決して疑わないで」。

JAWRO が今後ますます発展することを強く願っています。